十和田湖国立公園

十和田湖は、青森県と秋田県にまたがる二重カルデラです。約20万年前に始まった一連の火山の噴火により誕生しました。2018年の時点で、面積では日本12位、深さでは3位です。海抜400メートルに位置する湖岸の長さは、約46キロメートルです。季節を問わずに美しい十和田湖ですが、特に人気が高いのは、晩春（5月～6月）および秋季（10月）の景色です。

紫明亭展望台と日本新八景の碑

1927年、東京日日新聞と大阪毎日新聞が、一般からの投票により日本新八景を選定しました。

湖沼の部門で十和田湖が最優秀に選ばれると、1931年にはその快挙を記念し、日本新八景の碑が建てられました。展望台に置かれた理由は、十和田湖が最も良く見える場所だからです。

この看板の右手に見えるのは発荷峠展望台です。左手には、湖の向こう岸にカルデラの外輪部をなす御鼻部山が見えます。東側に見えるのは、御倉半島と中山半島です。